

かとう りな
加藤 莉奈さん

在校生

2023年度入学
2022年3月
日本福祉大学
スポーツ科学部卒業



私はパラスポーツやスポーツ科学研究に携わる仕事をしながら大学院で学んでいます。職場に必要な知識を深めて、さらに活躍したいと考えて大学院進学を決めました。

仕事を続けながら大学院を修了することは容易ではないと想像した中で、私にとって救いとなったのが「長期履修制度」です。この制度は修士課程期間を2年間に延ばす制度です。この柔軟な制度のおかげで、自分の仕事を継続しながら、計画的に研究を進めることができています。

授業については基本はZOOM参加、仕事の都合が付けば対面参加と併用しながら受講しています。指導教員とも連絡が取りやすい環境が整っており仕事と勉強の両立ができています。

うえだ だいすけ
上田 大介さん

在校生

2023年度入学
1993年3月 東北福祉大学
社会福祉学部卒業
2023年3月 日本社会事業
大学福祉マネジメント修了



社会福祉の専門職大学院で学んだことで視野が広がり、さらに多角的な視点から学びを深めたいと考えたのが進学のかきかけです。大学院では卓球バレーというインクルーシブスポーツの普及に関する研究をテーマとしています。私は岩手県に住んでいるので、オンライン授業で単位が修得できるというのが、大学院進学の大前提条件でした。最初は少し心配もありましたが、どの先生も丁寧に対応してくださり、安心してオンラインで授業を受けることができています。またゼミの先生からメールでいつでも論文指導を受けられるという点も大変有難いです。遠隔地でも仕事をしながらオンラインで学べる環境は、社会人にとっては非常に重要だと思います。

やすい はるな
安井 晴菜さん

修了生

2023年度修了
2022年3月
日本福祉大学
スポーツ科学部卒業



高齢者スポーツに興味を抱き、大学院での研究を通じてその価値を深く理解しました。その後、健康づくりやトレーニングに関する商品を提供する企業に就職しました。

大学院での学びは、研究指導を通じて結果への筋道や根拠を重視する姿勢を身につけさせてくれました。これは私にとって、就職活動においてだけでなく、人生の決断においても重要な基準となりました。その結果、自分自身が真に価値を感じるものを追求する意志がより明確になりました。

大学院で培ったこの価値観は一生の財産となり、学生時代から現在に至るまで、さまざまな場面でその重みを感じています。

院生の研究テーマ・内容(例)

- 研究テーマ「地域在住高齢者の運動・スポーツ実践の内容と健康関連QOLの関連：愛知県M町の事例研究」
運動・スポーツ団体や地域の特定健診受診者に協力を仰ぎ、65歳以上の高齢者を対象に自記式質問紙調査を実施。
地域在住高齢者による運動・スポーツ実践の内容および健康状態とHRQOLとの関連について明らかにする。
- 研究テーマ「バレーボールにおける予測の学習特性 ―サーブの方向予測に着目して―」
バレーボール経験を有する男子大学生16名を対象とし、部活動経験群と部活動未経験群の2つの群に分けて実験を実施。
バレーボールにおける予測の精度がどのような過程で高くなっていくのか、また精度の高い事前情報はどのように学習されるのかを明らかにする。
- 研究テーマ「ラグビーフットボール競技における外傷予防策の検討 ―動作の特徴に関連する運動器機能に着目して―」
大学ラグビー選手16名を対象にタックル動作を解析。ラグビー選手の外傷予防策として活用するための基礎的な知見を得るために、タックル動作における特徴(問題)とそれに関係する運動器機能との関係について明らかにする。

研究指導に関する流れ

